# 令和7年度豆類振興事業（試験研究助成費）の成果概要

**⑨　課　題：北海道の小豆におけるマメノメイガ緊急防除対策**
**（6～7年度）**
**代表者：(地独)北海道立総合研究機構　道南農業試験場**
**作物病虫グループ　主査（病虫）青木元彦**

## 目　的

2023年に北海道の小豆に著しい被害をもたらしたマメノメイガの発生生態を解明するとともに、薬剤防除法を確立する。

## 成　果

### ①マメノメイガの発生生態の解明

・成虫の初発は道南農試圃場内の観察で7月28日、中央農試圃場内観察で7月30日、北見農試ではたたき出しで7月20日であった。初発以降成虫は、道南農試の予察灯で9月上旬～10月上旬にかけて、北見農試のたたき出しで8月上旬～9月上旬にかけて確認された。
・幼虫による小豆の食害開始時期は、道南農試で7月18日、中央農試で7月24日、北見農試で7月29日であった。道南農試では、食害確認後その程度は徐々に増加し、被害莢率および被害花率は8月下旬にピークを迎えた。

### ②小豆のマメノメイガに対する薬剤防除法の確立

・開花始めから4回散布の試験において、ジアミド系A剤、クロルフェナピル系D剤およびベンゾイル尿素系E剤の被害莢率（9月）の無処理区比は51以上と防除効果が低かった。メタジアミド系B剤の被害莢率（9月）の無処理区比は44～63と防除効果にふれがあった。スピノシン系C剤の被害莢率（9月）の無処理区比は32～42と防除効果が認められた。
・スピノシン系C剤を用いた散布開始時期の検討においては、開花始めからの散布が完全防除とほぼ同等の効果を示した。開花始め11日から散布は完全防除と比較してやや劣る～ほぼ同等の効果であった（表）。

表　スピノシン系C剤を用いた散布時期別防除効果

| 処理内容 | 被害莢率（%） | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| | 道南 | | 中央 | 北見 | |
| | 8月 | 9月 | 9月 | 8月 | 9月 |
| 開花始めから4回 | 7.2 | 6.2 | 5.7 | 2.7 | 3.6 |
| | (39) | (32) | (49) | (31) | (36) |
| 開花始め11日後から4回 | 8.5 | 9.2 | 4.9 | 4.7 | 5.2 |
| | (46) | (47) | (42) | (53) | (52) |
| 完全防除 | 8.9 | 7.1 | 5.9 | 3.2 | 3.0 |
| 開花始めから5～6回 | (48) | (36) | (47) | (36) | (30) |

注）括弧内は無処理区比